

令和3年度第1回中央区地域支えあいづくり協議体（議事録）

日時： 令和3年8月3日（火） 午前10時～11時30分

場所： 中央区社会福祉協議会3階会議室

議事録次第：

1 開会

2 会長・副会長選出

3 会長挨拶

4 新任委員紹介

5 議題

（1）高齢者施策推進室より報告

（2）生活支援コーディネーターによる取組みについて

（3）「支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）」実施報告

（4）意見交換

テーマ「高齢者のICT活用に向けた取組みと課題について」

～ICTの活用に対する抵抗感を減らすには～

6 今後の協議体実施予定

7 閉会

## 出席者【委員】

高橋 恵子	聖路加国際大学 国際・地域連携センター：PCC 開発・地域連携室
鈴木 康子	民生・児童委員協議会 京橋地域高齢福祉部会
平賀 淳子	民生・児童委員協議会 日本橋地域高齢福祉部会
村上 久子	民生・児童委員協議会 月島地域高齢福祉部会
浜野 豊	中央区生きがい活動リーダー
吉田 千晴	京橋おとしより相談センター
水野 みゆき	日本橋おとしより相談センター
當山 貴子	月島おとしより相談センター
加久 哲也	中央区桜川敬老館孤立防止・生きがい推進担当
島谷 恒伸	中央区浜町敬老館孤立防止・生きがい推進担当
本田 恭彦	中央区勝どき敬老館孤立防止・生きがい推進担当
片桐 義晴	中央区社会福祉協議会 管理部地域ささえあい課長
古田島 幹雄	中央区社会福祉協議会 事務局長
吉田 和子	中央区高齢者施策推進室長
早川 紀行	中央区福祉保健部高齢者福祉課長
平川 康行	中央区福祉保健部介護保険課長

(敬称略：順不同)

## 配布資料：

資料1	中央区地域支えあいづくり協議体運営要綱
資料2	中央区高齢者通いの場マップ
資料3-1	「自宅で粋トレ！」チラシ
資料3-2	「自宅で粋トレ！」チャレンジカード兼アンケート
資料4-1	生活支援コーディネーターによる取り組みについて
資料4-2	LINE ちょこっと体験会チラシ
資料4-3	多世代交流スペース「はまるーむ」チラシ
資料5	支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）実施報告
資料6	協議体関係図
机上配付資料	介護保険つうしん（第23号）

## 議題説明：

- (1) 中央区高齢者施策推進室より事業報告
- (2) 生活支援コーディネーターより事業報告
- (3) 生活支援コーディネーターより、支えあいのまちづくり協議体実施報告

## ●上記事業説明及び配布資料への質問事項：

なし

#### (4) 意見交換（グループワーク）

テーマ「高齢者の ICT 活用に向けた取り組みと課題について」

～ICT の活用に対する抵抗感を減らすには～

##### A グループ：

使い方がわからないと抵抗感につながるため、楽しんで使っていく仕組みを検討する。

- ① ためしにICTに触れる機会の提供。 例：タブレットの貸出し（敬老館で検討中）
  - ② 慣れてもらうためのアドバイスを行う。
  - ③ みんなで教える仕組み作り。 例：地域の指導者の育成、専門職向けの講座
- \* メリットだけでなくデメリットも伝える必要もある。

##### B グループ：

抵抗感を感じる部分 ① スマホを使わなくても不便に感じていない。

② 操作が難しい。

- \* 繰り返し行う場、みんなで一緒に体験する場が必要。（敬老館ですすでに取り組みあり）
- \* 場に集まらない人へのフォローが必要。ICT の活用が進むことで情報にアクセスできない方が取り残される懸念がある。

##### C グループ：

① 相談窓口があるとよい。 例：スマホ教室の開催（敬老館）

② 便利さを伝える。

③ 体験してみる。 例：LINE や Zoom など具体的なアプリの体験

- \* 怖くないことを伝え、環境を整える必要がある。
- \* 関西の事例にて、大学生等が高齢者のワクチン接種予約をボランティアで行っているとの情報提供があった。
- \* 地域で使い方等を学べる講座があると良い。

##### D グループ：

① スマホ教室に行くことが難しい方に訪問して教える支援があると良い。

② 身近な地域の知人等に教えてもらう。

③ ICT を魅力に感じる要素があれば繰り返し使用することができる。きっかけづくりも大切である。

④ 小さな画面が見えにくい、指の細かな操作ができない等、身体機能の面で使用できない方もいる。

## 【総括】

それぞれの立場・役割の中で持つ情報を共有できる意見交換は有意義だった。意見交換で出た意見をまとめると、高齢者が ICT に抵抗感を感じる理由としては、①操作がわからない、②今の生活に満足し不便を感じていない、③目が見えにくい等の身体的な問題で使いにくい、④使うことの怖さ、の4点が上がっていた。

これらの抵抗感を減らすための方法として、①わからないことをすぐに聞ける場所・窓口があること、②みんなで教える・支える仕組み作り、③体験する機会をもち、触れることで便利さを知ってもらう、④ICT に魅力を感じるきっかけ、またはつながれる魅力を知ってもらう、以上4点が上がった。また、若いボランティアが高齢者の新型コロナワクチンの予約をサポートしたという他地域の事例は、どこの地域でも取り組みやすいのではないかと。

最後に忘れてはいけないのは、それでも ICT が使えない方が孤立してしまうことである。場に来られない方は使えているのかもわからない、見えない部分である。取り残されてしまう方の支援についても考えていく必要があるだろう。

## 【その他 各委員からのご意見】

- ・ ICT を活用している方とは連絡を取りやすいというメリットがあるが、活用していない方もいるので、活用していない方が孤立しないようフォローが必要である。コロナ禍の制約もあるが、対面の機会も大切にしていきたい。
- ・ ICT の活用が難しい方にとっては紙媒体での情報提供が必要である。高齢者の7割は区報から情報を得ている。紙媒体での情報提供と ICT の活用に向けた支援の、双方が必要ではないか。
- ・ 身体的な問題で ICT を活用できないこともある。また、ICT を活用せずとも不便でないという意見は新しい発見だった。
- ・ スマートフォンの字が小さくて見えないという声もある。ICT は情報伝達の有効な媒体ではあるが、紙媒体での情報伝達も必要である。
- ・ スマートフォンを持っているが、限られた機能しか使わない。使い方がわからない時は携帯ショップで質問するか、知人に教えてもらっている。高齢者が ICT を活用するには、サポートが必要だろう。
- ・ ICT を活用せずとも不自由していない方に対し、いかに便利さを伝えるかは課題である。
- ・ 今回の意見交換により、コロナ禍で対面の機会が制限される状況の中、高齢者のつながりが希薄にならないよう、ICT を活用した新たなつながりを作る必要があるのではないかと考えに至った。しかし ICT を活用せずとも不便さを感じていない方もいるため、対面の機会も大切にしながらつながりを大切にしていきたい。
- ・ ICT の活用に向けては本協議体で検討を重ね、計画的に進めていく必要がある。中央区内には通信企業も多いので、連携していく必要も出てくるかもしれない。平時においても ICT の活用が継続されるには、まずは楽しんで使える仕組みが必要だろう。